

内陸と沿岸の玄関口

—道の駅「三滝堂」がオープン—



三陸自動車道インターチェンジに隣接していた「道の駅三滝堂」は4月1日、オープンし、多くの人でにぎわいました。

道の駅三滝堂は、休憩施設と集客施設の併設型で、ドライバリーの利便性、地域活性化と災害防災拠点整備などを目的に整備。県内で13カ所目、市では5カ所目の道の駅となります。

建物は、市の地場産品などを取り扱う物産販売所、食堂（フードコート）、24時間営業のコンビニエンスストアと事務棟からなる地域活性化施設（714平方メートル）、国が設けた情報提供施設・トイレの2棟で、いずれも木造平屋建てです。

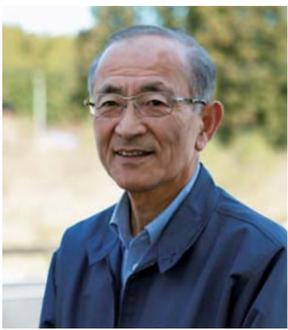
敷地内には、車中泊専用スペース「RVパーク」、ドッグランなども整備しており、駐車台数は81台。施設の事業費

は約5億2千万円。

道の駅三滝堂は、本市と南三陸町の境界の近くに位置し、内陸と沿岸部の接続点。東和地域だけでなく、本市の総合的な観光窓口として、地域の魅力を市内外に発信する役割を担います。

物産販売所では登米市ブランドの米、野菜や加工品を始めとした特産品や各種農産物を販売。フードコートでは、これらを使用した本市の郷土料理やご当地グルメを楽しめます。

竣工式には関係者約1200人が出席。布施孝尚市長は「高速道路利用者にも地域にも使い勝手が良い施設で、市の観光情報なども発信していきたい」と話しました。オープニングセレモニーでは、関係者がテープカットをし、佐沼高吹奏楽部や西郡太鼓芸能伝承会の演奏などで祝いました。



道の駅三滝堂熊谷信 駅長

接続点の機能果たす

三陸道無料区間には、食事ができ、道路利用者がゆつくりと休めるパーキングエリアがありませんでした。当駅には、登米市ならではの物産品があり、コンビニエンスストアもある。ドッグランやRVパークも整備しています。このようなパーキングエリアは全国的にも少ないです。

ここは単なる休憩施設ではありません。内陸と沿岸部を結ぶゲートウェイ。商品はもちろん、情報も内陸、沿岸部どちらも発信していきます。多くの皆さんにリピーターになってもらえるよう、さまざまな企画していきますので、ぜひご来駅ください。

1 関係者がテープカットし、開駅を祝いました。2 直売所には「まいたけようかん」など、東和町ならではの商品を数多く取りそろえています。3 西郡太鼓芸能伝承会が祝いの演奏。4 ドッグランは、小型犬用、中大型犬用の2つに分かれています。広い敷地に犬たちも大喜び。5 併設するコンビニエンスストアには、登米市観光PRキャラクターの「はっぴー」グッズや店舗限定商品「ほやぼーやTシャツ」が販売されています。

Interview 来場者に聴く



福島友希さん(東松島市)

道の駅のオープン記念に親子で来ました。施設もきれいで広いし、商品は登米市ならではのものがたくさんあっていいですね。登米市方面に用事があるときは寄りたと思います。



佐藤愛花さん(石巻市)

ドッグランがあると聞いたのでお母さんと愛犬の花、桜とドライブにきました。ドッグランが広くて、花と桜もうれしそうです。これからソフトクリームを食べて帰ります。また来たいな。